

## 「車椅子でも外出できる」に向けての介入が 退院後の QOL に寄与した一例」

榛葉智之



### 【はじめに】

悲観的で閉じこもり傾向の発言があった夫婦の「外出したい」という希望への介入と退院後の生活について報告する。

### 【事例紹介】

80 歳代の男性、廃用症候群の診断にて回復期病棟へ入院。FIM は 36 点で認知面は低下。移動は車椅子で病前は妻との外出が趣味だった。

### 【介入内容】

本人・妻の悲観的な発言を受け本人の能力を明確化、介護負担感に着目し家族指導を早期から実施。その後本人と妻から病前のように二人で外出したいと聞かれ、自宅からの外出を具体的に想定した動作練習、本人と妻への介助指導、交通機関利用を行った。

### 【退院後の生活】

夫婦での外出は習慣化し、病前よく通ったデパートへ行っている。本人は「外出はとてもいい」と話し、時々好きな物を食べにファミレスに行っている。

### 【考察】

入院時に家族での外出に向けた実用的な移動手段の検討や介助指導などの介入が、家族の自信に繋がり退院後も継続して外出が行えるという家族単位での QOL と IADL の獲得へ寄与した。

## 「車椅子でも外出できる」に向けての介入 が退院後のQOLに寄与した一例

医療法人財団利定会 大久野病院  
作業療法士 榛葉智之  
工藤弘之 工藤美和 進藤 晃

## はじめに

今回、廃用症候群の診断にて入院した症例と  
その家族について介入を行った。

その結果、元々の余暇活動であった外出が手  
段を変えて獲得され、退院後のQOLに寄与し  
たためここに報告する。

※今回の発表に際し本人・家族の同意を得ている

## 事例紹介

- 80歳代、男性
- 診断名：誤嚥性肺炎後の廃用症候群
- 現病歴：本人運転で自損事故を起こし胸骨・肋骨骨折の診断。その後、蜂窩織炎発症、呼吸状態悪化し肺動脈塞栓症、誤嚥性肺炎等を認めた
- 合併症：OA、気管支喘息、深部静脈血栓症、肺動脈塞栓症、せん妄、皮膚潰瘍、COPD、心不全、医原性副腎皮質機能不全
- 発症前の生活：妻と二人暮らし、ドライブが好きで二人で外食・旅行に行っていた

## 作業療法評価

- 体幹・下肢を中心とした筋力低下やOAにより、基本動作は中等度～全介助
- ADL：FIMは36点、ほとんどの場面で介助が必要
- 易疲労性
- せん妄が残存（理解・表出面でつじつまがあわない）
- HDS-R：12点
- 病棟生活場面：妻は非常に献身的だが病棟のADLはほとんどを妻の介助で行っている

## 目標立案(希望の聴取)

### 本人

せん妄の影響で発言のつじつまが合わず聴取が困難であった

### 妻

「**こんな状態**で退院後の生活なんて考えられません。」「何もすることがないずっと家にいます。」  
⇒献身的な反面、**病棟での介護負担感**が強く、退院後の生活の価値(余暇)を考える余裕がないと推察

QOLに繋がる合意形成の困難さ

## 方針

- ①合意は3者で形成する。
- ②本人とは基本動作・ADL練習を中心に実施し介助量の軽減を優先的に目指す
- ③妻にはリハビリに参加して頂く。本人の能力と介助が必要な場面を明確化し、介助方法を理解することで介護負担感の軽減を目指す
- ④上記実施後に社会参加や余暇について再聴取する

## 介入経過

(方針を立ててから20日後)

⇒ 本人は { 基本動作が自立した  
セルフケアの介助量が軽減  
簡単なコミュニケーション成立

⇒ 妻の過介助がはっきりと軽減する

双方から退院後の生活について肯定的な発言

## 再聴取と合意形成

- 本人より「世話になった人に会いに行きたい」
- 妻より「退院後は元々好きだった外出がしたい。○  
○ストアによく行っていた。また行けたら嬉しい。」
- 耐久性や歩行安定性の低下から屋外移動は車い  
すになると予測

⇒合意目標を「車いすで公共交通機関を使い  
外出できる」とした

※生活行為向上マネジメントを使用。

生活行為向上マネジメントシート

生活行為向上マネジメント

利用者：A氏 担当者：横塚 智之 記入日：[ ]

生活行為の目標	本人 歩けるようになりたい、世話になった人に会いに行きたい	キーパーソン 外に出かけられるようになりたい		
生活行為を妨げている要因	心身機能・構造の分析 肩関節炎・腰痛・頸椎症・肩こり	活動と参加の分析 移動能力・シフトワーク	環境因子の分析 用具・環境変化・気候・場所	
	b280 石段疼痛 b455 立位バランス低下 b730 筋力低下 b114・b117 認知機能低下	d450 歩行は補助具使用でも難 折れあり軽介助必要 d420 車の乗り降り困難 d470・d920 外出未経験 d460 屋外歩行困難 d450 段差昇降困難	e310 妻は介助に不慣熟 e155 玄関アプローチは不整地 e160 自宅周囲は車椅子使いづらい e165 外出手段の情報不足	
現状能力(強み)	b130 リハビリへの意欲 b455 易成性での改善 b110 せん妄の改善	d410・d420 起立・移乗は自立 d410 立ち上がり自立 d415 立位保持5分可能	e410 妻は介助にも意欲的	
予後予測(1ヶ月で、どこまで達成できるか)	<1ヶ月> 下肢・体幹筋力向上 動的立位バランスの安定	<1ヶ月後> (家の付近で) 屋内歩行容易 車椅子・屋外歩行経介助、車の乗り降り容易、18cm 段差昇降可能、外出を行う	<1ヶ月後> 妻の適切な車椅子、歩行介助獲得、住宅改修、外出手段の理解	
同意した目標(具体的な生活行為)	本人と妻の二人で公共交通機関を使い外出ができる			
自己評価*	初期 実行度 1/10 満足度 1/10	最終 実行度 8/10 満足度 9/10		
生活行為向上プログラムの実施・支援内容	基本的プログラム	応用的プログラム	社会的プログラム	
	達成のためのプログラム	①下肢・体幹筋力強化訓練 ②立位バランス訓練	①屋内・屋外歩行訓練 ②段差昇降訓練 ③車の乗り降り練習 ④外出訓練	①車椅子介助練習 ②妻への介助指導 ③自宅内・外の歩行、家の出入り ④巡回訪問指導 ⑤サービ担当者会議
	本人	①②をリハビリ室で行う	①～③を病院・④⑤を外 出先で行う	③を自宅訪問に OT・PT と行う ④⑤を OT・PT・SW・GM と行う
	家族や支援者	OT・PT は①②を本人と行う	①～④を本人・妻・OT・PT で行う	①～⑤を OT が本人・妻と行う ④⑤を本人・OT・PT・SW・GM・福祉業者・地域サービス担当者で行う
実施・支援期間	[ ]			
達成	<input type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> 改善達成 <input type="checkbox"/> 未達成(理由： ) <input type="checkbox"/> 中止			

\*自己評価では、本人の実行度(達成などの量的評価)と満足度(質的評価)を1から10の数字で表してもらおう

## 外出支援プログラム

- 外出練習(車への乗車練習やデパートでのトイレ動作、エレベーターの位置確認、歩道の車いす介助)
- 自宅への出入り、自宅周辺の地形を想定した車椅子介助指導
- 公共交通機関の利用

初期との発言の変化が印象的

外出訓練後、本人・妻より「行ってみてよかった、楽しかった、また二人で行こうね」と話される



## 退院時

- FIM:75点。移動は4点杖軽介助、屋外移動は車いす介助、移乗は見守り、セルフケアは修正自立～軽介助レベル、段差昇降は軽介助。
- 外出に関して、本人・妻の二人で実施できていた。自分達で行ける自信がついたと述べていた
- 家屋改修、介護保険サービスの利用: デイサービス(2/W)、訪問リハビリ(1/W)、訪問看護(1/W)

## QOLについて(1年後)

～在宅生活の語りから～

生活の充実感を感じている  
QOLが保たれている

入院中の介入によって外出手段が獲得

余暇としての外出:よく行って、駅近くの景色を見に行く、ファミレス

頻度の向上や余暇活動に繋がった

本人より:体調よくなった。外出はすごくいい

妻。外出の出来事が語られ、肯定的意見が多い。余暇活動がQOLに寄与している

## 考察

- 本人のADL介助量と家族の介護負担感に着目した介入により3者での「外出したい」という目標立案へ至った
- 退院後の生活の価値を見据え外出について目標共有し、具体的な場面を想定した練習を行ったことが余暇としての外出や頻度の向上に繋がった
- 外出が生活の満足感に与える影響についての報告やインタビュー内容からも、入院中の介入が1年の在宅生活においてQOLが維持されていることへ寄与したと考えられる

## おわりに

回復期病棟に入棟している要介護患者とその家族において、退院後の生活の楽しみや余暇をあきらめずに再獲得し、対象者にとって価値のある在宅生活が送れるよう介入を行っていきたい。



# ご清聴ありがとうございました

## 参考・引用文献

- 1) 石原多佳子ら 外出頻度の少ない山間地域在宅高齢者支援の検討 日本地域看護学会誌Vol.7 (2004) No.1p. 62-67
- 2) 鄭 春姫 高齢者の生活における外出の重要性に関する研究—外出支援の在り方について— 浦和大学・浦和大学短期大学部、浦和論叢 第54号 2016-2
- 3) 一般社団法人 日本保健情報コンソシウム・大橋 靖雄ら、高齢者のQOL向上のための外出支援ガイドブック 2017-7